

## 教職員のICT活用指導力向上を目指して

TOHO チェックリストを活用した ICT 推進リーダーの働きかけ

東峰村立東峰小学校  
主幹教諭 杉野 千晶

こんな手立てによって…

TOHOチェックリストを核として、ICT活用指導力を向上させるため、ステージごとに成果と課題を明らかにしながら組織や個への働きかけを行った。

こんな成果があった！

○教職員のICT活用指導力である資質・能力が向上した。  
○TOHOチェックリストを活用したICT推進リーダーのマネジメント及び指導・助言等、働きかけの在り方が明らかになった。

### 1 考えた

GIGAスクール構想のもと本校でも一人一台タブレット端末が配布されたが、文部科学省作成の「教員のICT活用指導力チェックリスト」を実施したところ、結果の数値から指導力が十分とは言えない状況であった。そこで、ICT活用指導力の実態を本校オリジナルの「TOHOチェックリスト」で把握し、ICT推進リーダーとして組織にまた個に対してICT活用指導力アップのマネジメントを重点的、継続的に行えば、学校全体でのICT活用指導力が向上すると考えた。

### 2 やって見た

#### (1) TOHOチェックリストを核にしたPDCAサイクルの機能化

推進リーダーがTOHOチェックリストをもとに、教職員のICT活用指導力の現状把握及び目標設定を重点化し、組織、個に対して年間を通じて継続的にマネジメントしつつ、各教職員組織及び個への力量に応じた働きかけを繰り返していった。

#### (2) ステージ目標の重点化・共有化及び各組織や個への指導・助言の具体化

年間のステージごとに組織や個で目標、内容を重点化、共有化し、各組織や各教職員の実態や困り感に寄り添ったICT利活用の技能などの支援活動をおこなった。

#### (3) ICT支援員との連携

ICT支援員の専門性を校内で有効活用するために意図的・計画的にICT研修、授業サポートができるような環境づくりを工夫した。

### 3 成果があった！

教職員の一人一人のICT活用指導力が着実に高まり、日常の授業でICT機器を効果的に利活用していくことができるようになってきた。その結果、子どもたちのICT活用の意欲やスキルも確実な高まりを見せてきた。ICT利活用の推進に比例し、職員会議のペーパーレス化などの働き方改革も進み、運動会や文化祭でのYouTube配信や海外との遠隔授業も具現化し、開かれた学校づくりが急速に進展しつつあることは、もう一つ特筆すべき成果である。

## <目次>

# 教職員のICT活用指導力向上を目指して

TOHO チェックリストを活用した ICT 推進リーダーの働きかけ

1	主題設定の理由	3
	(1) G I G Aスクール構想推進の背景から	4
	(2) 本校の I C T教育推進の現状から	5
2	主題の意味	5
	(1) 教職員の I C T活用指導力について	5
	(2) T O H Oチェックリストを活用した I C T推進リーダーの働きかけについて	6
3	研究の目標	8
4	研究の仮説	8
5	研究の構想	8
	(1) T O H Oチェックリストを核にした P D C Aサイクルの機能化	8
	(2) ステージ目標の重点化・共有化	8
	(3) 各組織や個への指導・助言の具体化	9
	(4) I C T支援員との連携	9
	(5) I C T推進リーダーによる働きかけロードマップの策定	10
	(6) 研究構想図	10
6	研究の実際	11
	(1) 実践1～活用基礎力・情報モラル指導力アップを目指して～	11
	(2) 実践2～授業実践力アップを目指して～	18
7	成果と課題	24
	(1) 研究の成果	24
	(2) 今後の課題	25
	<参考文献>	25

## 教職員のICT活用指導力向上を目指して

TOHO チェックリストを活用した ICT 推進リーダーの働きかけ

東峰村立東峰小学校  
主幹教諭 杉野 千晶

### 1 主題設定の理由

#### (1) G I G Aスクール構想推進の背景から

文部科学省は、新たな時代「Society5.0」を生き抜く人材を育成するため、「G I G Aスクール構想」(令和元年12月)を提唱し、この構想のもと、各学校ではICT環境の整備が一気に進み、それに伴い、より充実したICTの利活用とその指導力が求められることとなった。

そこで福岡県は「福岡県学校教育ICT化推進計画～令和2年度後半から令和3年度にかけての対応方針～」(令和2年12月)の中で「ICT化を推進する体制の整備、人材の配置」について次のように方針を示している。(資料1)

- 学校教育のICT化については、これまでは、端末や通信環境の整備などのハード面の業務が中心でしたが、今後はこれに加えて教職員のICT活用指導力の向上や先進的な教育モデルの開発などのハード・ソフト・人材育成を一体とした整備が重要になっていきます。
- 学校教育のICT化に関する幅広い業務を円滑に推進していくためには、教育委員会の関係部署が有機的に連携し、必要に応じて首長部局とも連携しながら、組織をあげて取り組むための推進体制を構築することが必要です。
- 各学校においても学校CIOたる管理職のリーダーシップの下、組織的にICT化を進めるための対応が必要です。例えば、校務分掌の一つとして、ICT化推進リーダーなどのポストを創設したりすることも有効です。また、そのようなポストには、ICT機器を操作できるかという技能のみならず、授業改善のリーダーシップが取れるかという能力が重要となることに留意が必要です。

【資料1：「福岡県学校教育ICT化推進計画」(令和2年12月)より抜粋】

つまり、ICT推進リーダーが中心となり、校長(CIO)の下、下部ICT推進組織に働きかけ、ICT活用の推進体制づくりや人材育成を意図的、計画的に進めることが、教職員のICT活用指導力を向上させる上で大きな意義があると考えられる。

#### (2) 本校のICT教育推進の現状から

本校は、東峰小学校と東峰中学校が統合された小中一貫校であり、「東峰学園」として運営している。本研究は、東峰小学校と東峰中学校の教職員と児童生徒において実践、検証したものである。

① ICT環境の整備状況について

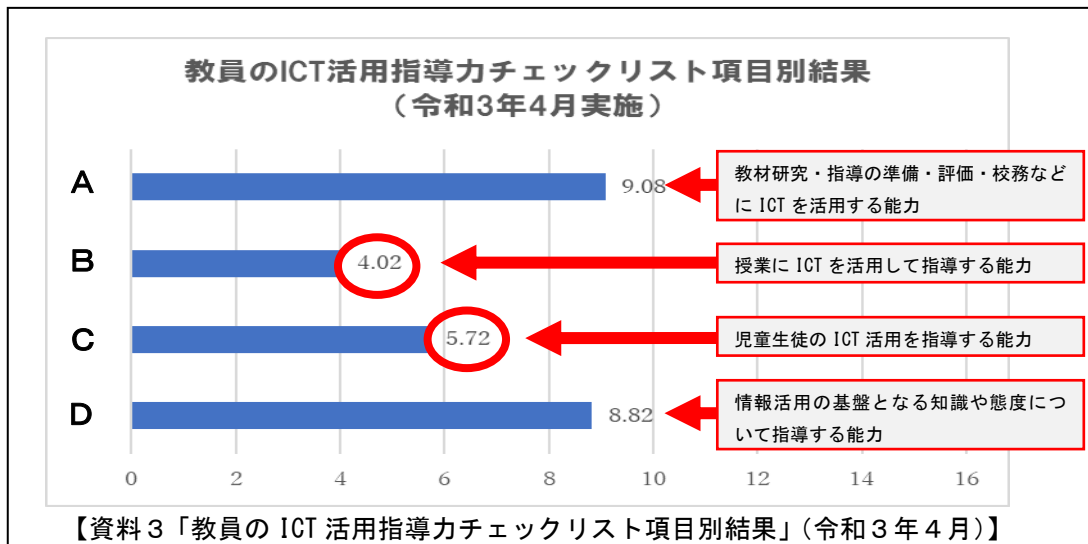
ICT環境に関しては、令和2年度2月末に全児童生徒、全職員に1人1台タブレット端末(iPad)が配布され、通信環境も全教室においてWi-Fiが完備され、いつでもどこでも利用が可能となった。

②教職員の実態について

職員の年齢構成としては、20代7名、30代1名、40代3名、50代・60代が17名と若年教員とベテラン教員が多数を占め、2極化が見られる。令和元年4月に文部科学省が平成30年6月に改訂した「教員のICT活用指導力チェックリスト」(資料2)を実施したところ、以下のような結果となった。(資料3)

項目A「教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力」、B「授業にICTを活用して指導する能力」、C「児童生徒のICT活用を指導する能力」、D「情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力」のいずれにおいても1.6点中、半分程度しかなく、指導力が十分とは言えない状況であった。

	4 できる	3 やや できる	2 あまり できない	1 ほとんど できない
<b>A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力</b>				
A-1 教材効果上げるために、コンピュータやインターネットなどの活用場面を計画して活用する。	4	3	2	1
A-2 授業で使う教材や校務分掌に必要な資料などを集めたり、保護者・地域との連携に必要な情報を発信したりするためにインターネットなどを活用する。	4	3	2	1
A-3 授業に必要なプリントや提示資料、学籍経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	4	3	2	1
A-4 学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	4	3	2	1
<b>B 授業にICTを活用して指導する能力</b>				
B-1 児童生徒の興味・関心を高めたり、学習の動機づけを高めたり、学習の意欲を高めるために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	4	3	2	1
B-2 児童生徒に互いの意見・考え・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	4	3	2	1
B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませる。	4	3	2	1
B-4 グループで話し合っって考えをまとめたり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用する。	4	3	2	1
<b>C 児童生徒のICT活用を指導する能力</b>				
C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能(文字入力やファイル操作など)を児童生徒が身に付けることができるように指導する。	4	3	2	1
C-2 児童生徒がコンピュータやインターネットなどを活用して、情報を収集したり、目的に応じた情報や信頼できる情報を選択したりできるように指導する。	4	3	2	1
C-3 児童生徒がワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトなどを活用して、調べたことや自分の考えを整理したり、文章・表・グラフ・図などに分かりやすくまとめることができるように指導する。	4	3	2	1
C-4 児童生徒が互いの考えを交換し共有して話し合いなどできるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用することを指導する。	4	3	2	1
<b>D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力</b>				
D-1 児童生徒の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導する。	4	3	2	1
D-2 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	4	3	2	1
D-3 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	4	3	2	1
D-4 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	4	3	2	1



また、項目別に見ると、特にBとCの数値が低く、ICTを授業の中で有効活用できていない実態や子どもたちの操作技能の習得までには至っていないという実態が浮かび上がった。これらの現状から、ICT環境整備が整ったこの時期に、早急に教職員全員のICT活用指導力を高めていくことが喫緊の課題だと考えた。

## 2 主題の意味

### (1) 教職員のICT活用指導力について

教職員のICT活用指導力とは、子どもの主体的・対話的で深い学びを実現するために、ICTを積極的に用い、主に授業等の場面で効果的に活かし、また子どもの有効活用を促すようコーディネートする能力のことである。具体的には、以下に示す3つの資質・能力を指す。

#### ①活用基礎力

活用基礎力とは、授業等でICTを有効活用できるようにするための基盤となる基礎的な知識、技能である。具体的には、ソフトやアプリの機能について理解し、それらを利用して情報を収集、記録、整理、作成、発信することのできる力である。

#### ②情報モラル指導力

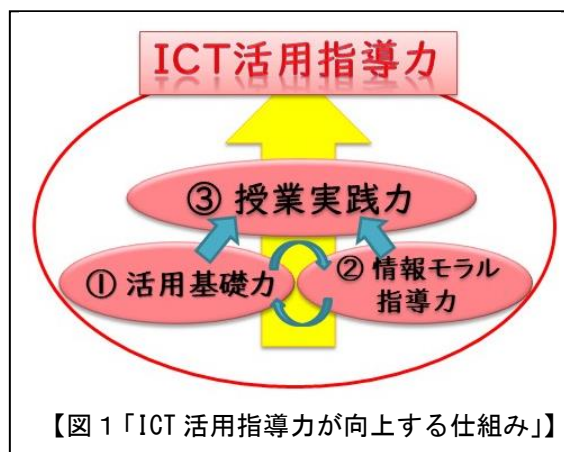
情報モラル指導力とは、インターネット等を安全に利用できるようにするためのルールやマナー等、情報モラルに係る知識や態度を身に付けさせる力である。具体的には、自他の権利や他者への影響、ネット犯罪や健康被害等について考えさせ自身の言動をコントロールできるように指導する力である。

#### ③授業実践力

授業場面において、子どもたちの学習意欲を高めたり、理解を深めたりするために、ICTの様々な機能を生かして効果的に活用できる力である。具体的には、どの場面に、どのように活用すれば効果的か具体的に授業計画を立てたり、実際にソフトやアプリを駆使して活用したりすることができる力である。

これらの3つの力は、文部科学省が示した「教員のICT活用指導力チェックリスト」(前頁：資料2)に提示された4つの力をもとに、本校の教職員の实態を踏まえて重点化して設定したものである。

上記の3つ特性を持つICT活用指導力が向上する仕組みを図1に示す。まず、タブレット端末の操作に関する技能やソフトやアプリの機能に関する知識等、①活用基礎力を獲得する。それと同時に、子どもの基本的な操作技能や情報モラルなどを身に付けさせる②情報モラル指導力も獲得していく。これらの2つの力は相関関係にあり、①活用基礎力を教職員が身に付けることで、子どもへの②情報モラル指導



力も向上し、逆に情報モラルに関わる子どもたちの実態をもとに①活用基礎力を見直し向上させていく必要もある。そしてこれらの2つの力を基盤として、効果的にICTを授業づくりに繰り返し活用することのできる力である③授業実践力を高めていくのである。

(2) TOHOチェックリストを活用したICT推進リーダーの働きかけについて

① TOHOチェックリストとは

TOHOチェックリストとは、本校の教職員のICT活用指導力の実態をもとに、前述した3つの資質・能力の観点に即して重点化し、作成した本校オリジナルのチェックリストのことである。(資料4)

作成に関しては、資料4のように、文部科学省の「ICT活用指導力チェックリスト」をもとに、項目A「教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する力」から①活用基礎力に関する内容を、項目D「情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力」から②情報モラル指導力に関する内容を、項目B「授業にICTを活用して指導する能力」から③授業実践力に関する内容を抜粋した。抜粋した質問内容については、項目ごとの調査結果から数値の低い質問内容に焦点化して選び出した。(次頁:資料5)

また、文部科学省の「ICT活用指導力チェックリスト」の項目Cに関しては、子どもがICT活用できるように指導する内容であるため、これらが達成できているかについては、子どもに直接自己評価させるものとして考えた。

### TOHOチェックリスト

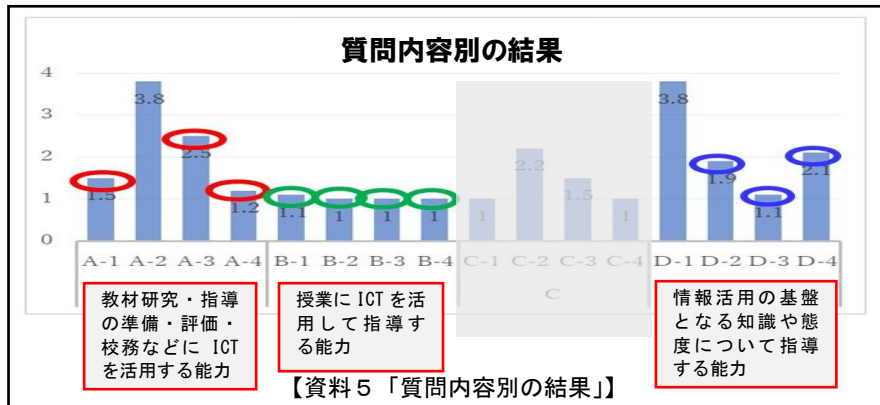
4わりとできる 3ややできる 2あまりできない 1ほとんどできない

<b>①活用基礎力</b>	4	3	2	1
①-1 教育効果をあげるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画して活用する。	4	3	2	1
①-2 授業に必要なプリントや資料、学級経営や校務分掌に必要な文書や資料などを作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。	4	3	2	1
①-3 学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。	4	3	2	1
<b>②情報モラル指導力</b>	4	3	2	1
②-1 児童生徒がインターネットなどを利用する際に、反社会的な行為や違法な行為、ネット犯罪などの危険を適切に回避したり、健康面に留意して適切に利用したりできるように指導する。	4	3	2	1
②-2 児童生徒が情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるように指導する。	4	3	2	1
②-3 児童生徒がコンピュータやインターネットの便利さに気付き、学習に活用したり、その仕組みを理解したりしようとする意欲が育まれるように指導する。	3	2	1	
<b>③授業実践力</b>	4	3	2	1
③-1 児童生徒の興味、関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。	4	3	2	1
③-2 児童生徒に互いの意見・考え・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。	4	3	2	1
③-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組みさせる。	4	3	2	1
③-4 グループで話し合ったり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。	4	3	2	1

### 教師のICT活用指導力チェックリスト(文部科学省)

<b>A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力</b>
A-1 授業を上げるために、コンピュータやインターネットなどの利用場面を計画し、活用する。
A-2 授業に必要な資料や資料を作成するために、ワープロソフト、表計算ソフトやプレゼンテーションソフトなどを活用する。
A-3 児童生徒の学習状況を把握するために、児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。
A-4 児童生徒の学習状況を把握するために児童生徒の作品・レポート・ワークシートなどをコンピュータなどを活用して記録・整理し、評価に活用する。
<b>B 授業にICTを活用して指導する能力</b>
B-1 児童生徒の興味、関心を高めたり、課題を明確につかませたり、学習内容を的確にまとめさせたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して資料などを効果的に提示する。
B-2 児童生徒に互いの意見・考え・作品などを共有させたり、比較検討させたりするために、コンピュータや提示装置などを活用して児童生徒の意見などを効果的に提示する。
B-3 知識の定着や技能の習熟をねらいとして、学習用ソフトウェアなどを活用して、繰り返し学習する課題や児童生徒一人一人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組みさせる。
B-4 グループで話し合ったり、協働してレポート・資料・作品などを制作したりするなどの学習の際に、コンピュータやソフトウェアなどを効果的に活用させる。
<b>C 児童生徒のICT活用を指導する能力</b>
C-1 学習活動に必要な、コンピュータなどの基本的な操作技能(文字入力やファイル制作など)を児童生徒が身に付けることができるように指導する。
C-2 児童生徒がインターネットやデジタルコンテンツなどを活用して学習する際に、適切な利用方法を指導する。
C-3 児童生徒がインターネットやデジタルコンテンツなどを活用して学習する際に、適切な利用方法を指導する。
C-4 児童生徒が互いの意見を交換し共有して学習することができるように、コンピュータやソフトウェアなどを活用して指導する。
<b>D 情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力</b>
D-1 児童生徒がインターネットやデジタルコンテンツなどを活用して学習する際に、適切な利用方法を指導する。
D-2 児童生徒がインターネットやデジタルコンテンツなどを活用して学習する際に、適切な利用方法を指導する。
D-3 児童生徒がインターネットやデジタルコンテンツなどを活用して学習する際に、適切な利用方法を指導する。
D-4 児童生徒がインターネットやデジタルコンテンツなどを活用して学習する際に、適切な利用方法を指導する。

【資料4 「TOHO チェックリストについて」】



## ② TOHOチェックリストを活用する価値

- ア. 現状を自覚させ、ICT活用指導力の達成目標を全職員で共有することができる。
- イ. 数値の結果から課題を共有し、研修の内容を焦点化・具体化し、立案できる。
- ウ. 教職員自身に自己の変容を数値化・見える化し、伸びを実感させることができる。

## ③ TOHOチェックリストを活用したICT推進リーダーの働きかけとは

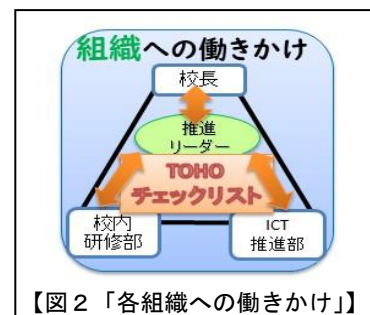
ICT推進リーダーが中心となり、TOHOチェックリストを中核にして、P(実態把握・目標設定)、D(実践)、C(評価・検討)・A(改善)のサイクルに沿って教職員のICT活用指導力を高めていく支援のことである。

ア. **各組織への働きかけ**…校長(学校CIO)の考えを受け、ICT推進部や校内研修部等、各組織のマネジメント及び指導・助言すること。

イ. **個への働きかけ**…教職員の個々人のニーズに応じて直接的に指導・助言すること。

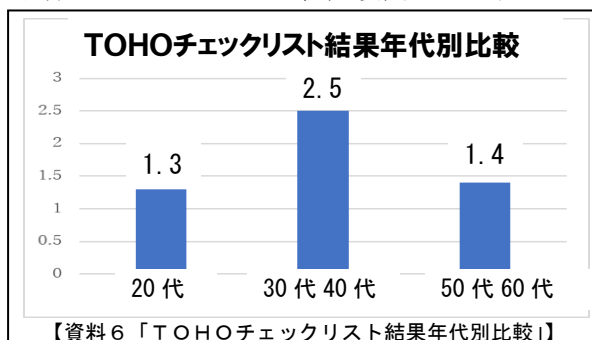
ア. **各組織への働きかけ**について

ICT推進リーダーは、校長の考えを受け、具体化させ、関わりの大きい校内研修部やICT推進部など各組織に下ろしていく立場である。また、各組織から上がってきた要望や考えを吸い上げ、校長へ相談、進言することも考えられる。(図2)



イ. **個への働きかけ**について

資料6のようにTOHOチェックリストの結果を年代別で見ると、20代は4点中1.3、50代・60代は1.4と低く、30代・40代の2.5に比べて半数ほどの数値になっており、年齢別の差が大きいことが分かる。そこで、教職員を若年、中堅、ベテランと年齢層で3つに区分し、それぞれの年齢層の実態やニーズに応じてミニ研修や授業サポートを実施し、直接関わって行く必要があると考えた。(図3)



### 3 研究の目標

教職員のICT活用指導力を向上させるために、TOHOチェックリストを活用したICT推進リーダーによる教職員へのマネジメント及び指導・助言等の在り方を明らかにする。

### 4 研究の仮説

ICT推進リーダーが、TOHOチェックリストを用いて、次の4つの視点から働きかけていけば、教職員は授業や校務などに必要な基本的な知識や技能を身に付けるとともに、情報活用の基盤となる知識や態度について指導する力、授業の中でより効果的にICTを活用して指導する力を身に付けていくであろう。

視点1：TOHOチェックリストを核にしたPDCAサイクルの機能化
視点2：ステージ目標の重点化・共有化
視点3：各組織や個への指導・助言の具体化
視点4：ICT支援員との連携

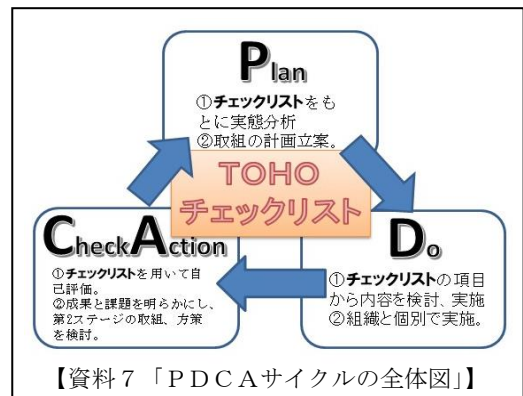
### 5 研究の構想

#### (1) TOHOチェックリストを核にしたPDCAサイクルの機能化

TOHOチェックリストを活用したICT推進リーダーの働きかけを表1のように2つのステージに区切って実施する。その際、それぞれのステージにおいて、PDCAサイクルに沿って、具体的な目標を掲げ、校内研修部やICT推進部等の各組織へ、また個別のニーズに合わせたスキルアップ研修等を立案、実施していく。このように推進リーダーがPDCAサイクルを機能化させ直接的、間接的にマネジメントしつつ働きかけをおこなっていく。(資料7)

ステージ	実施時期
第1ステージ	令和3年4月～令和3年8月 <b>実践1</b>
第2ステージ	令和3年9月～令和4年3月 <b>実践2</b>

【表1「実施計画」】



【資料7「PDCAサイクルの全体図」】

#### (2) ステージ目標の重点化・共有化

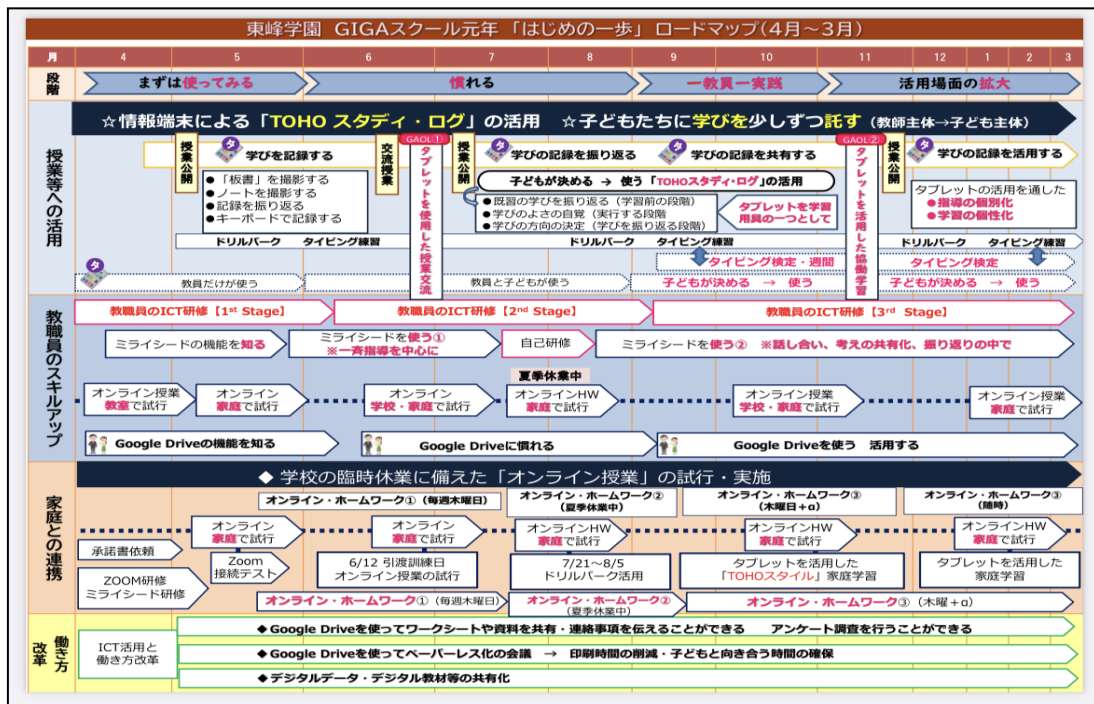
各ステージにおいて全職員のICT活用指導力が向上するために、まずは、教職員全体の実態把握を行い、自覚化を図る。その際、数値化した結果を見える化し、また目標の重点化を図り、全体で共有化することが重要である。

令和3年4月の実態把握の段階では、特に、③授業実践力に大きな課題があった。そのため、本研究では授業実践力アップを最終目標とし、そのための基盤である活用基礎力と情報モラル指導力を前段階として向上させる必要があると考えた。そこで、それぞれのステージ目標を以下のように設定した。

第1ステージ：活用基礎力・情報モラル指導力アップを目指して
第2ステージ：授業実践力アップを目指して



また、重点化する内容については、資料8に示す令和3年4月に校長より出された「ICT活用を進めるためのロードマップ」も踏まえるとともに、各ステージのPDCAサイクルのC・Aの段階での結果を分析し、方策を検討、立案していく。



【資料8 「校長より出されたロードマップ」】

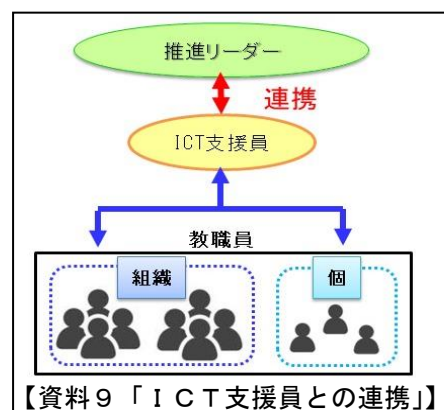
### (3) 各組織や個への指導・助言の具体化

PDCAサイクルの中で、各組織への指導・助言、また個別のニーズに合わせた研修等で指導・助言を行っていく。具体的には以下に示すとおりである。

- 組織への指導・助言…組織のメンバーたちが主体的に取り組むことができるように、主にチーフへの指示、連絡調整を行い、組織全体に対してはアドバイスや取組に対する評価や賞賛を行い、組織のメンバーのモチベーションを高めていく。
- 個への指導・助言…教職員が活用指導力の伸びを実感できるように、それぞれのスキルの実態を把握し、ニーズに応じたミニ研修や授業サポートを実施する中で相談役になったり、具体的なアドバイスを行ったり、賞賛したりする等、実践への意欲を高めていく。

### (4) ICT支援員との連携

ICT活用を促進するためには、専門的なスキルを持ったICT支援員の存在が不可欠である。本校においても、令和3年度以前から配置はされているが、令和3年4月からは回数が増え、週に2回の配置となった。これを期にICT支援員との連携をさらに強化し、役割や支援の具体を明らかにしていく必要がある。そこで、本研究では、ICT支援員との連携を以下のように考えた。(資料9)

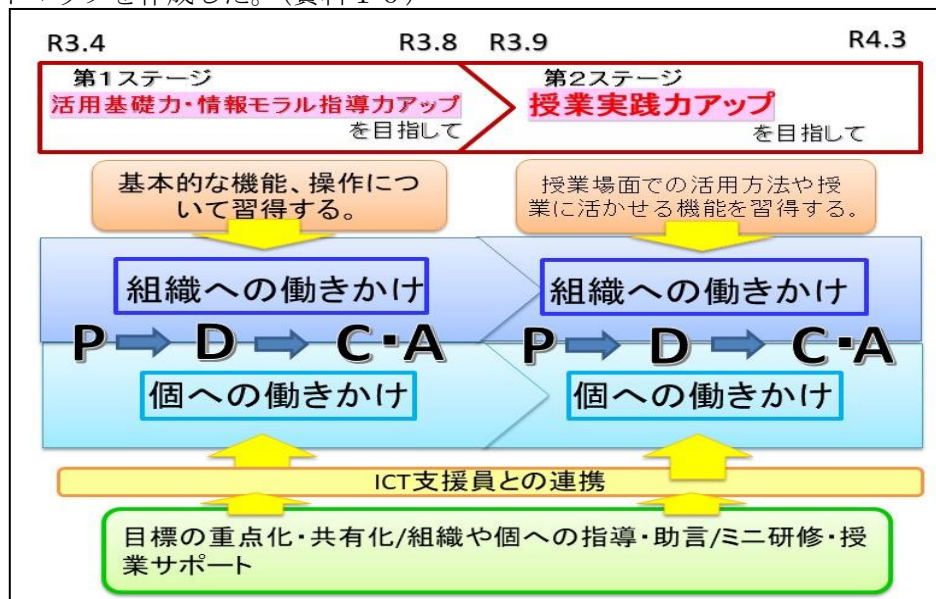


### ICT支援員との連携の具体化

- ① ICT推進リーダーとの目標や方策の共有、具体的な支援に関する連絡調整
- ② ICT推進リーダーやICT推進部への専門的知識・技能に関する助言
- ③ スキルアップ研修等での専門的指導
- ④ 教職員のニーズに応じた個別の授業サポート

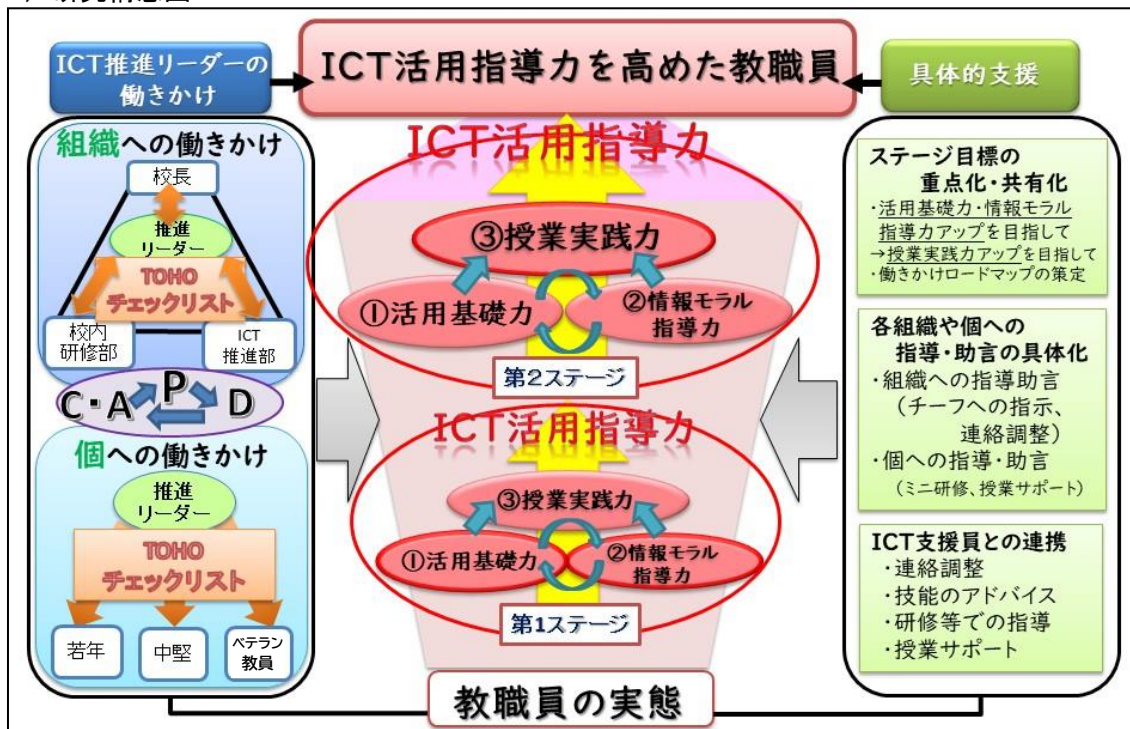
### (5) ICT推進リーダーによる働きかけロードマップの策定

以上、述べた構想をより具体化し、実効性のあるものにするために次のような働きかけロードマップを作成した。(資料10)



【資料10「働きかけロードマップ」】

### (6) 研究構想図

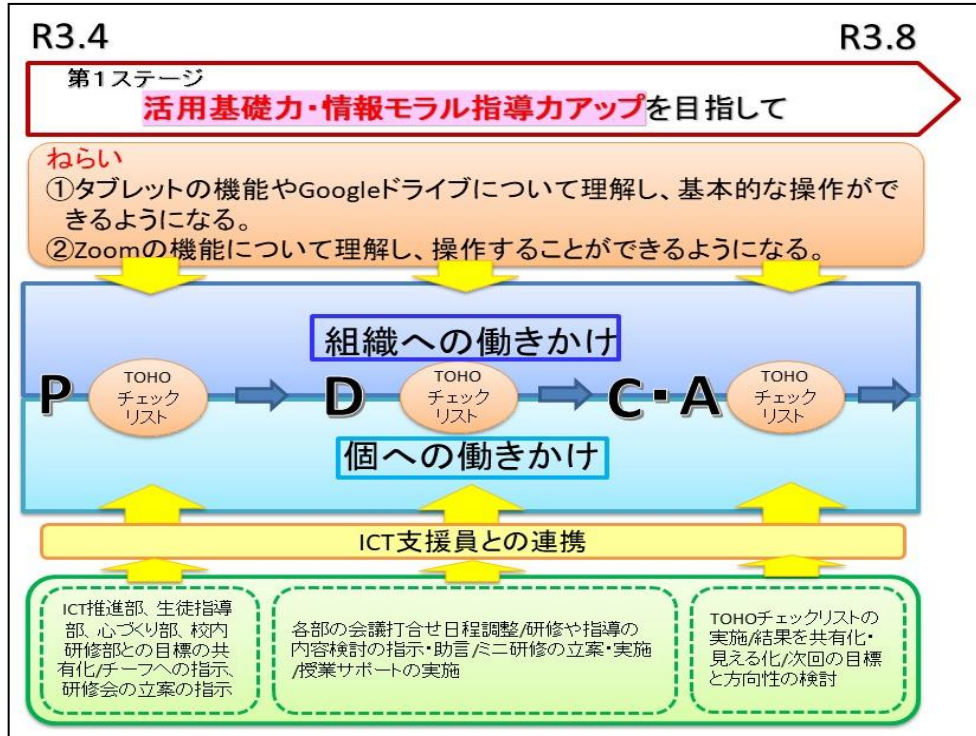


【資料11「研究構想図」】

6 研究の実際

(1) 実践1～活用基礎力・情報モラル指導力アップを目指して～（令和3年4月～8月実施）

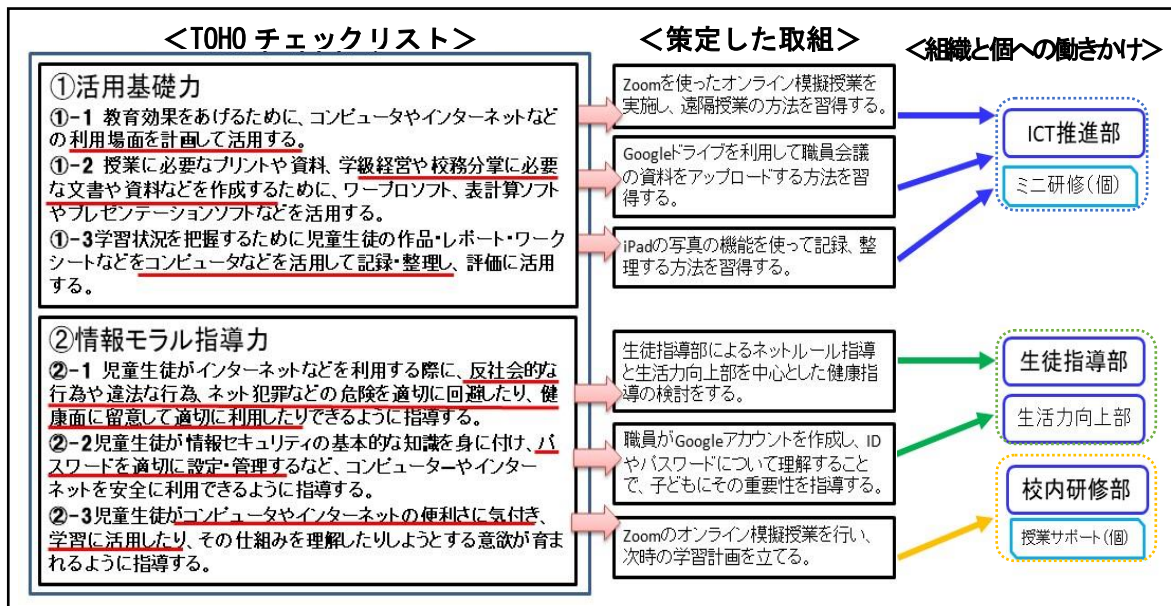
教職員の実態と校長が示したロードマップをもとに、ねらいを①タブレットの機能やクラウド利用について理解し、基本的な操作ができるようになる②Zoomの機能について理解し、操作することができるようになる、と設定し、PDCAサイクルを機能化させ、目標の達成を目指した。（資料12）



【資料12「第1ステージの働きかけロードマップ」】

①P (Plan) の段階

ここでは、TOHOチェックリストの項目と校長より出されたロードマップをもとに、第1ステージの取組について構想を立てた。（資料13）



【資料13「第1ステージの取組の構想」】

この構想をもとに、**組織への働きかけ**、**個への働きかけ**をそれぞれ実践していった。

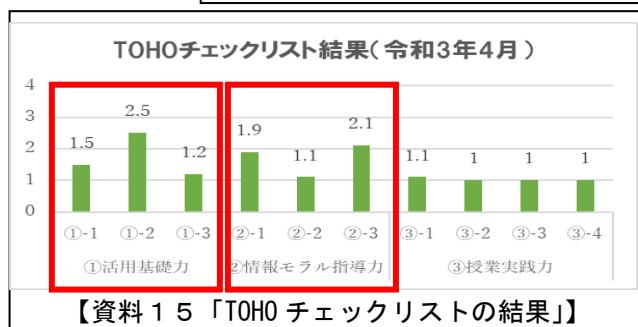
### 組織への働きかけ

#### 視点 2：ステージ目標の重点化・共有化

資料 1 4 のように、各チーフ（ICT 推進部、校内研修部、生徒指導部、心づくり部）を集めてチーフ会議を開いた。TOHO チェックリストの結果（令和 3 年 4 月）を資料 1 5 のように数値化し、見える化して提示し、課題等を示しながら、年間目標、第 1 ステージの重点目標、



具体的な取組等（資料 1 3）について共有化した。「チーフの先生方にもぜひそれぞれの部で取組をお願いしたい。」と話す中、早速「自分のところでは、・・・ができそう。」など具体的な方策についてアイデアが出てきた。



#### 視点 3：組織や個への指導・助言の具体化

チーフ会議の中で、それぞれの方策について話題が膨らんだところで、各チーフのアイデアを大事にしながら、次のような指示を出した。（資料 1 6）

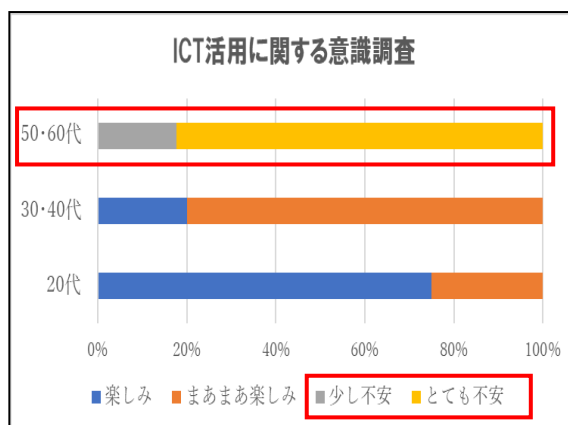
組織	指示内容
ICT 推進部	スキルアップ研修の内容立案、実施 (Zoom 研修、iPad 機能・Google ドライブ研修)
生徒指導部 生活力向上部	スマホアンケート結果による指導内容の検討、実施 (小学部から中学部まで一斉で簡単に指導できる内容、方法)
校内研修部	Zoom 模擬授業についての具体的な内容検討、実施 (どんなことができるか事例を探し、提示する。)

【資料 1 6 「各組織チーフへの指示内容」】

### 個への働きかけ

#### 視点 3：各組織や個への指導・助言の具体化

資料 1 7 から分かるように、ベテラン教員は、ICT 活用に大きな不安を感じており、研修の時間だけでは習得まで達することができないと考えた。そこで、放課後等に 10 分程度のミニ研修を設け、再度、研修内容を復習し、一緒に操作する等、本人の意欲を大事にして進めることとした。また、毎日の授業でのサポートも必要に応じて実施していくこととした。



【資料 1 7 「ICT 活用に関する意識調査結果」】

## ②D (Do) の段階

ここでは、計画をもとに、次のような組織への働きかけ、個への働きかけを行った。

### 組織への働きかけ

視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

視点4：ICT支援員との連携

ICT推進部、生徒指導部・生活力向上部、校内研修部の取組及びその時に行ったICT推進リーダーの指導・助言、またその時の教職員の様子については以下に示すとおりである。ただし、ここでは特に中心的取組のICT推進部の実践を中心に述べる。

ICT推進部	
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回のスキルアップ研修実施。</li> <li>第1回「iPadとGoogleドライブの使い方を知ろう」(4月)</li> <li>第2回「Zoomを使ってみよう」(5月)</li> </ul>
ICT推進リーダーによる指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修内容や研修当日の役割について打合せ</li> <li>・体験を中心に、有効性を実感できる内容になるように助言</li> <li>・ベテラン教員が不安なく教え合いながら学べるように年齢層でグルーピングするように指示</li> <li>・事前にスキルのある職員を調査、当日サポートの依頼を指示</li> </ul>
ICT支援員との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の内容打合せ、助言の指示</li> <li>・研修当日のサポート、講師依頼</li> </ul>

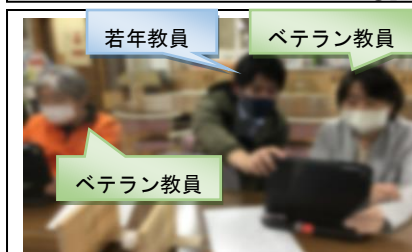
### 教職員の様子

#### ○第1回「iPadとGoogleドライブの使い方を知ろう」(4月)

ICT推進リーダーが講師となり、iPadのカメラ機能の使い方とGoogleドライブの使い方を指導した。(資料18) ICT支援員には特に苦手感のあるベテラン教員についてもらった。iPadのカメラ機能については、比較的簡単な操作で保存できるため共有や整理の方法については職員同士、撮影してその利便性を実感しているようだった。Googleドライブについては、アカウントを作成することから始めた。アカウントを作成する際に、「クラウド」「ID」「アカウント」などの用語についても説明し、実際に職員会議に提案する文書をアップロードする体験を実施した。途中、ベテラン教員から疑問や質問



【資料18「スキルアップ研修の様子①」】



【資料19「スキルアップ研修の様子②」】

なども多く出たが、事前にサポート役にスキルのある職員を配置していたことや、若年教員とベテラン教員をグルーピングしていたこと、またICT支援員を配置していたことで、すぐにベテラン教員に駆け寄り操作方法について教える姿があった。ベテラン教員も気軽にたずね、若年教員も意欲的に教える姿があった。(資料19)

○第2回「Zoomを使ってみよう」(5月)

この研修会ではICT支援員に講師を依頼し、終礼時の10分程度で仕組や操作方法などについて指導をもらった。(資料20) ここでもZoom経験のある職員をサポート役に配置し、若年教員とベテラン教員をグルーピングし教え合えるようにした。その結果、用語や操作についても側にいる教員にすぐにはたずね、安心して研修に参加できている様子であった。ベテラン教員Aの研修後の感想には、「やってみるとZoomの入室もチャットのやり取りも簡単でした。B先生(若年教員)が側で教えてくれたので楽しくできました。」とあった。(資料21) ただ、第1回、2回どちらの研修会も職員は大変意欲的だったが、予想以上に説明や操作等に時間がかかってしまい、設定時間をオーバーしてしまった。今後、短時間で効率よく必要な技能を習得できる研修の方法を検討する必要がある。




【資料20「ICT支援員による研修」】

研修を終えた感想をお書きください。


やってみるとZoomの入室もチャットのやり取りも簡単でした。B先生(若年教員)が側で教えてくれたので楽しくできました。

【資料21「ベテラン教員Aの研修後の感想」】

他の各組織の活動については下記の概略版のとおりである。

生徒指導部・生活力向上部 ※概略版		
取組の内容	ネットルール指導、健康指導(5月) (資料22)	
ICT推進リーダーによる指導・助言	・各担当が統一して無理なく指導できる内容を検討するようチーフに指示	
ICT支援員との連携	・指導内容についての助言の指示	

【資料22「生徒指導・健康指導の様子」】

校内研修部 ※概略版		
取組の内容	Zoom模擬授業提案、実施(6月) (資料23)	
ICT推進リーダーによる指導・助言	・取組みやすい内容、事例を提示するようにチーフに指示 ・スケジュール調整 ・家庭へのZoomオンライン試行の実施依頼(文書作成)	
ICT支援員との連携	・授業との打ち合わせ、内容に関する助言の指示	


【資料23「Zoomオンライン模擬授業の様子」】

## 個への働きかけ

視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

視点4：ICT支援員との連携

ミニ研修と授業サポートの実施内容については以下に示すとおりである。

ミニ研修	
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後10分間のミニ研修（4月～8月）</li> <li>①「Google ドライブ」②「Zoom」③「その他の操作」</li> </ul>
ICT推進リーダーによる指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Google ドライブの使い方（復習）の直接指導</li> <li>・Zoom の使い方（復習+他機能）の直接指導</li> </ul>
ICT支援員との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員のサポートの指示</li> <li>・ICT推進リーダーへの知識・技能の助言</li> </ul>
<p><b>教職員の様子</b></p> <p>ミニ研修は、放課後10分間、少人数で開催し、ICT推進リーダーが直接指導、ICT支援員がサポート役で指導を行った。（資料24）ミニ研修①では「Google ドライブ」の復習という内容で実施した。希望制ではあったが、ベテラン教員を中心に多くの教員が参加した。また、ベテラン教員Cからは「すぐに忘れてしまうが、何度も使えば覚えられる。」と発言があり、意欲的にタブレットの操作を行う姿が見られた。その後、校務においても積極的にGoogle ドライブを利用する姿や、他の機能について質問する姿も見られた。ミニ研修②では「Zoom」の復習を行った。Zoomに関してはスキルアップ研修の時間が10分しかなかったため、模擬授業に確実につなぐために全員参加とし、若年とベテランを組み合わせることで4日間で実施した。再度操作することで、技能を習得する姿が見られた。その後ミニ研修③として「その他の機能」について研修を計画した。スライドや動画編集等、講座をこちらから提示し、希望制にして呼びかけた。職員からは、積極的に質問があり、参加者は意欲的に覚えようとする姿が多く見られた。ただ、<u>こちら側が習得してほしい内容を選び、教えるという形で実施したため、職員一人一人のニーズに応じた研修内容としては不十分だった。</u>また、大半を希望制としたため、希望していない職員との温度差が生じた。今後は、一人一人の悩みや課題に寄り添い、研修の内容を検討する必要がある。</p>	
<div style="text-align: right;">  <p>ICT 推進リーダー</p> </div> <p>【資料24「ミニ研修の様子」】</p>	

授業サポート	
取組の内容	日常的な授業サポート
ICT推進リーダーによる指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教室に入り、操作について助言、サポート</li> <li>・事前準備の助言</li> </ul>
ICT支援員との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・苦手感のある職員の授業サポート</li> <li>・トラブル発生時のサポート</li> </ul>

### 教職員の様子

4月に実施したTOHOチェックリストの結果から特に苦手感のある職員やサポートしてほしいと依頼があった職員に対して積極的にICT推進リーダーとICT支援員がサポートに入った。(資料25)サポートを受けた職員は、安心した様子で授業に臨んでいた。また、ICT支援員には、トラブル発生時に急きょ入ってもらったため、トラブルもスムーズに解消することができた。



ただ今回は、ICT推進リーダーが抽出した苦手感のある職員、またはサポートを希望した職員のみが対象となっており、全職員の授業サポートには至らなかった。今後は一人一人の悩みや課題に応じたサポートになるように実施内容や方法の工夫が必要である。また、ICT支援員の活用に関しても、トラブルが発生時など必要な支援のみを依頼するような一方的な指示が中心であったため、今後は計画的に運用することが重要である。

### ③C (Check)・A (Action) の段階

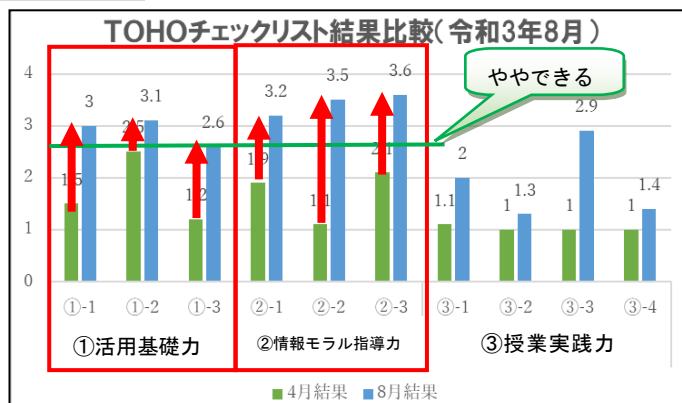
ここでは、TOHOチェックリストを実施し、その結果をもとに組織への働きかけ、個への働きかけを次のように行った。

#### 組織への働きかけ

視点2：ステージ目標の重点化・共有化

視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

チーフ会議を行い、資料26のようにTOHOチェックリストの結果を数値化、見える化し、全体で共有した。結果を見ると、活用基礎力、情報モラル指導力の全ての項目において数値が上がっており、チーフを中心に取組んだ組織の取組の結果であることを評価し、称賛



【資料26「TOHOチェックリスト結果比較」(令和3年8月)】

した。チーフも喜び、「2学期の取組を新たに考えたい。」と次への取組の意欲も見せた。ただ、数値の変化を見ると情報モラル指導力が平均値3.43で「ややできる」を上回っているのに対し、活用基礎力は平均値2.9「ややできる」には達しておらず、伸びは見られるもののまだ十分とは言えない。第2ステージにおいても、基本的な操作や機能について習得する機会を設け、研修を進めていけるように指示をした。

#### 個への働きかけ

視点2：ステージ目標の重点化・共有化

視点4：ICT支援員との連携

TOHOチェックリストの結果を全職員に共有するとともに、個人的にも声をかけ、伸



びを称賛し、同時に悩み等を聞いて今後の課題を明らかにした。ベテラン教員Aは「繰り返し練習したら写真や動画の共有も少しずつできるようになってうれしかった。」と喜びを表した。また「もっと子どもたちの発表場面などでスライドを使わせたり、共有させたりするような機能をたくさん知りたい。」と意欲も見せた。また、若年教員Cからは「データを共有したり、提出させたりする操作については覚えられたが、交流場面でどんなふうに使っていいかが分からない。」等の発言が聞かれ、若年は活用場面に課題を、ベテランは活用場面のイメージはつくが、そのための具体的な技能について課題を感じており、課題の内容に違いがあることが分かった。各職員が負担を感じることなく、ICTの有効性を実感し、意欲的にICTの利活用に取り組むための方策を考える必要がある。

## 【考察】

### 視点1：TOHOチェックリストを核にしたPDCAサイクルの機能化

PDCAそれぞれの段階で、TOHOチェックリストをもとにP(実態把握・目標設定)、D(実践)、C(評価・検討)・A(改善)に取り組んだことは、意図的、計画的なICT推進リーダーの取組みにつながった。

### 視点2：ステージ目標の重点化・共有化

第1ステージ目標を「活用基礎力」「情報モラル指導力」の2点に重点化し、各組織で共有化したことでチーフの意識が高まり、組織の動きが活性化した。全職員も課題が自覚化され、スキルアップの意欲向上につながった。

### 視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

各組織のチーフに指示、助言したこと、様々な講座を設定してミニ研修や授業サポートを実施したことは、活用基礎力及び情報モラル指導力を向上させることにつながった。今後は、さらに、新しい機能の操作を習得しつつ、それらをスムーズに授業で活用できるような接続を意識した研修の立案を行う必要がある。

### 視点4：ICT支援員との連携

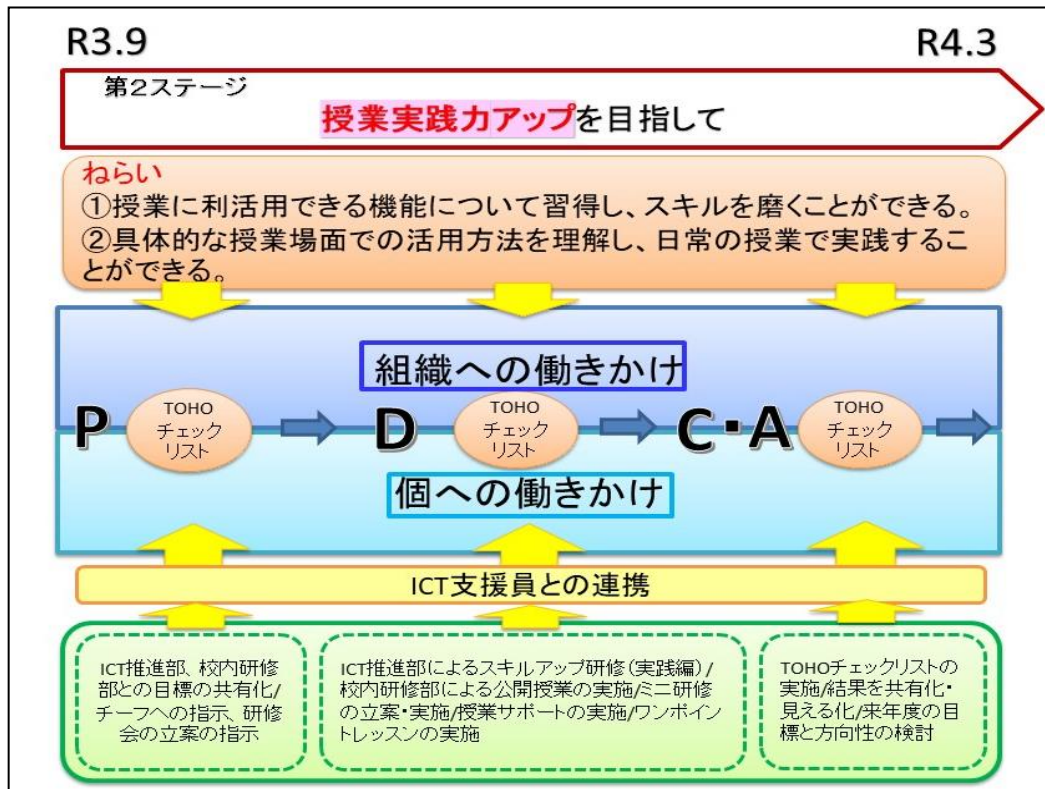
ICT支援員と連絡調整を密に行い、相談し、助言をもらったことで専門的なフォローだけでなく、効果的な研修の実施ができた。今後はさらに、ICT支援員の専門性を大いに発揮させるために、意図的、計画的な運用を進めることが重要である。

## 【第2ステージの取組の重点】

- ・特に若年教員には、授業実践のイメージが持てるように、公開授業を積極的に行い、モデルを示す。日常的に実践を始めている教員を積極的に巻き込む。
- ・ベテラン教員のために授業に直接使える研修内容（アプリ機能等）を立案する。
- ・ミニ研修、授業サポートの内容を一人一人のニーズに応じたものにする。
- ・各組織においてメンバーの役割を明確にし、組織の機能を高める。
- ・教職員一人ひとりの課題や悩みに寄り添ったICT支援員の活用に努める。
- ・研修については、教職員の負担感や不安を感じさせないように方法（時間、形態等）を工夫する。

(2) 実践2～授業実践力アップを目指して～（令和3年9月～令和4年3月実施）

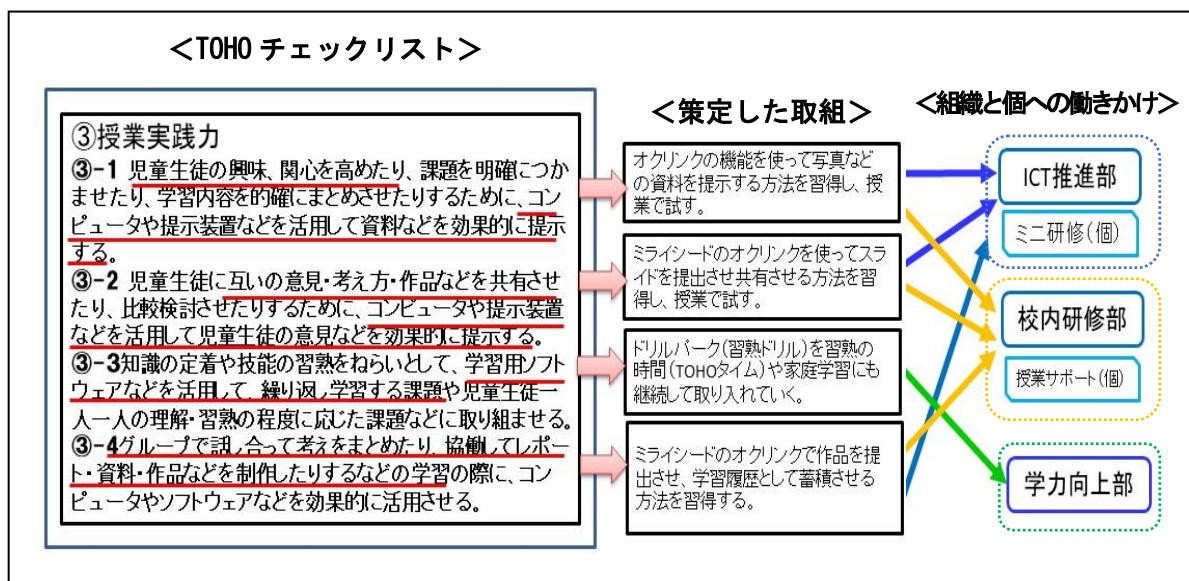
実践1の改善点と校長のロードマップをもとに、ねらいを①授業に利活用できる機能について習得し、スキルを磨くことができる②具体的な授業場面での活用方法を理解し、日常の授業で実践することができる。と設定し、P D C Aサイクルを機能化させ、目標の達成を目指した。（資料27）



【資料27 「第2ステージの働きかけロードマップ」】

①P (Plan) の段階

ここでは、TOHOチェックリストの項目と校長より出されたロードマップをもとに、ICT支援員の助言を受け、第2ステージの取組について構想を立てた。（資料28）



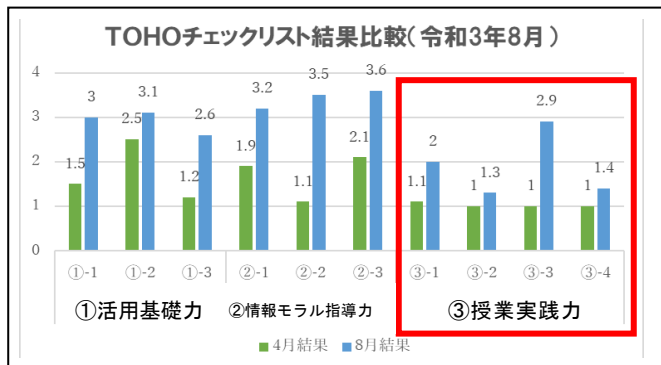
【資料28 「第2ステージの取組の構想」】

この構想をもとに、**組織への働きかけ**、**個への働きかけ**をそれぞれ行った。

### 組織への働きかけ

#### 視点2：ステージ目標の重点化・共有化

まずは、各チーフ（ICT推進部、校内研修部、学力向上部）を集めてチーフ会議を開いた。資料29のようにTOHOチェックリストの結果（令和3年8月）を数値化し、特に第2ステージの重点である③授業実践力を強調して見える化し、提示した。そして、授業実践力の各内



【資料29「TOHOチェックリストの結果」】

容項目に着目し、課題を分析、各組織でどのような取組ができるかを検討し、第2ステージの重点目標、具体的な取組等（資料27）について全体で共有した。③-1に関しては、導入や展開の場面で資料や作品等を提示するような機能を、③-2に関しては、展開の場面で考えを出し合い、比べ合うような機能を、③-4に関しては、終末の場面で本校の研究である学習履歴（作品や資料、振り返り等）を残す機能を活用することができるといった具体的な授業イメージを共有した。また、授業で活用できるようにするためには、スキルアップ研修等でその機能について習得し、その機能を授業の中で実践していく、校内研修部とICT推進部がリンクし、一連のサイクルでスキルアップを目指すことを確認していった。

③-3に関しては、試行し始めたドリルパーク（ベネッセ習熟用デジタルドリル）を使った家庭学習を学校全体で取組む体制づくりをすることを確認した。

#### 視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

チーフ会議の中で、それぞれの方策について話題が膨らんだところで、第1ステージの反省を生かして、次のような指示を出した。（資料30）

組織	指示内容
ICT推進部	スキルアップ研修の内容立案、実施（ミラーリング、オクリンク・ムーブノート研修） <u>※授業に直接使える機能等を学ぶ内容にすること</u> <u>※チームメンバーが役割を持ち、活躍の場をつくること。</u> <u>※実践を持っている職員も巻き込むこと。</u>
校内研修部	ICTを活用した授業研修の内容の検討、実施（スキルアップ研修を活かせる内容、方法） <u>※短時間でモデルとなる公開授業を行うこと。</u> <u>※チームメンバーが役割を持ち、活躍の場をつくること。</u> <u>※実践を持っている職員も巻き込むこと。</u>
学力向上部	ドリルパークを活用した習熟の時間（TOHOタイム）と家庭学習の継続的な実施 <u>※全職員が一斉に取組めるようなモデルを示す。</u>

【資料30「各組織チーフへの指示内容」】

## 個への働きかけ

### 視点4：ICT支援員との連携

今回も、放課後等に10分程度のミニ研修を設ける。第2ステージはさらに一人一人の課題や悩みを吸い上げるため、全職員にアンケートを実施し、そこから研修内容を立案することにした。また、授業サポートにおいては、校内研修部主催のショート公開授業を参考に、全職員が日常的に実践できるように計画を立てた。また、ICT支援員が全職員に立案時から関わり、サポートを行うことも提案した。

## ②D (Do) の段階

ここでは、計画をもとに、次のような組織への働きかけ、個への働きかけを行った。

### 組織への働きかけ

#### 視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

#### 視点4：ICT支援員との連携

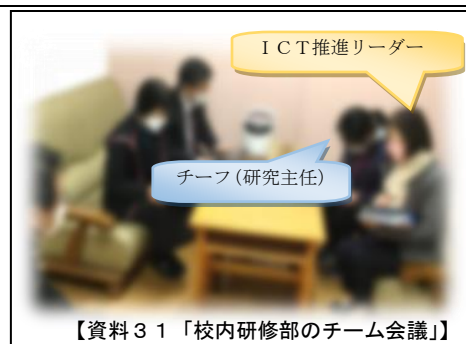
ICT推進部、校内研修部、学力向上部の取組及びその時に行ったICT推進リーダーの指導・助言、またその時の教職員の様子については以下に示すとおりである。ただし、ここでは特に中心的取組の校内研修部の実践を中心に述べる。

校内研修部	
取組の内容	ショート公開授業の提案、実施（11～2月）
ICT推進リーダーによる指導・助言	<ul style="list-style-type: none"><li>・スキルアップ研修の内容とリンクするように指示</li><li>・スケジュール調整</li><li>・チームのメンバーによる積極的な公開授業を依頼</li><li>・実践している職員（モデル）への依頼することを指示</li><li>・取組に対する評価・賞賛</li></ul>
ICT支援員との連携	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業者への計画段階における助言の指示</li><li>・公開授業当日のサポート依頼</li></ul>

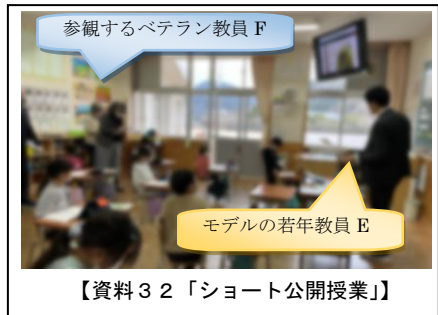
### 教職員の様子

事前にチーフと進め方について打合せをし、会議の進め方について確認をした。その後、校内研修部で会議を開き、チーフから趣旨や全体の計画について提案がされた。（資料31）ICT推進リーダーはできる限り見守り役に徹し、メンバーからのアイデアや前向きな発言に対する

称賛等を主に行った。チーフからショート公開授業の提案があると、メンバーも納得し、「まずはメンバーが実施し、その後は実践をしている先生を探しながら依頼の声をかけていこう」ということになった。内容としては導入、展開、終末のいずれかの15分間を公開すること、事前にショート公開授業のアナウンスを全職員に行い、希望者を募ることとした。しかし、特に今後実践してほしい校内研修等に関わる内容が公開される場合については全員参加を呼びかけた。第1回目は、チームのメンバーが公開し、多くの参観者が集まった。その後は、実践をしている職員に声をかけ、公開授業の依頼を



行っていった。また、負担感を感じないように以前から本校が実施している小中授業交流にショート公開授業をあてるようにもしていった。他の教員のショート公開授業を何度も参観した若年教員Eはその後モデルとなり、授業を行った。(資料32)「習った機能を活かせてうれしい。他の先生の活用場面を参考にしてみた。」と感想を述べ、ベテラン教員Fは「若い先生のアイデアが面白かった。自分も参考にしたい。」と話していた。授業者には感謝の言葉と称賛を行い、また参観者にも放課後に声をかけ、今後の授業の見通しを持てるようにアイデア等助言した。参観者もその後早速授業で試行し、実践する姿が見られた。また、ICT支援員には、ショート公開授業の日程と内容を事前に知らせ、授業者に対し立案の段階からサポートをすることを依頼した。その結果、授業者は事前に準備を行い、当日も安心してショート公開授業に臨む姿が見られた。



他の各組織の活動については下記の概略版のとおりである。

ICT推進部 ※概略版	
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回のスキルアップ研修(実践編)実施。</li> <li>①「オクリンクを使ってみよう」(9月)(資料33)</li> <li>②「オクリンクで学習履歴を残そう」(10月)</li> </ul>
ICT推進リーダーによる指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修内容や研修当日の役割について事前打合せ</li> <li>・組織のチーム一人ひとりに役割を持たせるよう助言、確認</li> <li>・ベテラン教員が不安なく教え合いながら学べるように年齢層でグルーピングするように指示</li> <li>・研修当日の見守り、評価、賞賛</li> </ul>
ICT支援員との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前の実践サポート、内容打合せ、助言</li> <li>・研修当日のサポート依頼</li> </ul>



学力向上部 ※概略版	
取組の内容	ドリルパークを使った家庭学習の提案、実施(9月～)
ICT推進リーダーによる指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な内容を検討するように指示</li> <li>・全校一斉に取り組めるような家庭学習モデルを示すように指示</li> <li>・スケジュール調整</li> <li>・家庭への依頼文書内容検討</li> </ul>
ICT支援員との連携	・実施内容に関する相談

## 個への働きかけ

視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

視点4：ICT支援員との連携

ミニ研修と授業サポートの実施内容については以下に示すとおりである。ただし、ここでは特に重点を意識して取組んだ授業サポートの実践を中心に述べる。

授業サポート	
取組の内容	ショート公開授業を活かした日常的な授業サポート
ICT推進リーダーによる指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教室に入り、操作について助言、サポート</li> <li>事前準備の助言</li> </ul>
ICT支援員との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>各担任の事前準備のサポートを指示</li> <li>全職員の授業サポートを指示</li> </ul>
<b>教職員の様子</b> ショート公開授業を各職員の実践につなげられるように全職員が授業実践をする時間を設定した。ICT推進リーダーがスケジュールを調整し、ICT支援員との事前相談日を設定した。相談日には授業者とICT支援員とICT推進リーダーの3者で事前の打ち合わせや助言等を行った。授業者にはできる限り負担感を持たせず、達成感を味わわせるようにスキルアップ研修の内容（スライド機能、提出機能、テレビや各iPadにデータを映し出す共有化の機能、学習履歴を残す機能）から1つに絞り、確実に実施できる内容を実践することをアドバイスした。ベテラン教員Fはショート公開授業参観後、「提出機能ならできるかもしれない。」と意欲を見せ、事前相談日にはICT支援員と操作等を試しながら詳細な打ち合わせを行っていった。授業日当日は子ども達に考えを書かせ、それを写真に撮り、オクリンクを使って提出させることができた。不安な様子もなく自信をもって取組むことができていた。今回は立案時から、全職員とICT支援員とが必ず関わるように計画したため、全職員の悩みやニーズに応じた授業サポートを実施することができた。また、悩みに応じた情報提供や資料作成など、ICT支援員が職員一人一人に積極的に関わり、サポートをする姿も見られた。	

ミニ研修の内容については下記の概略版のとおりである。

ミニ研修 ※概略版	
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>放課後10分間のミニ研修（9月～3月）</li> <li>「ICT支援員のワークショップ」</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>お悩みを教えてください。</p> <p>オクリンクで考えを提出した後の共有の方法をいろいろ知りたいです。</p> <p>タブレットの画面を切り替えるのがまだまだ遅くてなれません。</p> <p>使う教科と使わない教科があるので活用場面を増やしていきたいです。</p> <p>【資料34「アンケート結果」】</p> </div>
ICT推進リーダーによる指導・助言	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートをもとに講座メニューを作成（資料34）</li> <li>スケジュール調整</li> </ul>
ICT支援員との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>具其他的な操作の説明や助言</li> <li>研修内容の立案</li> </ul>

### ③ C (Check) ・ A (Action) の段階

ここでは、取組を終えて全職員に対し、TOHOチェックリストを実施した。そしてその結果を用いて組織への働きかけ、個への働きかけを次のように行った。

#### 組織への働きかけ

視点2：ステージ目標の重点化・共有化

視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

チーフ会議を行い、TOHOチェックリストの結果を数値化、見える化し、全体に共有した。結果を見ると、授業実践力の全ての項目において数値が上がっており、それぞれの組織においてチーフを中心に取組んだ結果であることを評価し、称賛した。授業実践力だけではなく、活用基礎力についてもポイントが上がっており、授業に直接活かせる機能に関するスキルアップ研修等を実施し、そことリンクさせ、ショート公開授業から自分の実践につなげていったことが有効だったのだろうと意見が出た。また来年度についても、スキルアップ研修と授業実践を同時進行で実施していくことを助言した。

#### 個への働きかけ

視点2：ステージ目標の重点化・共有化

視点4：ICT支援員との連携

TOHOチェックリストの結果を提示し、全体で共有した。また、個人的に声をかけ、伸びを賞賛していった。ベテラン教員Gは「一つの機能を覚えて、それを授業で活かす、という方法だったので少しずつ覚えられた」と感想を述べた。また若年教員Bは「他の先生の授業を見て大変参考になった。どこの場面で使ったらいいのかが分かるようになった。これからもどんどん使っていきたい。」と意欲を見せた。ICT支援員の関わりも今回は授業サポートの事前の段階から関わるようにしたため、教職員も「実践がスムーズにできた」と満足していた。

### 【考察】

視点1の有効性は、実践1で明らかになったため、視点2、3、4について述べる。

視点2：ステージ目標の重点化・共有化

第2ステージ目標を「授業実践力」を向上させることに重点化し、各組織が取組む手順やポイントなども共有化したことで取組みの方向性が一貫され、全職員の目標達成の意識も高まった。

視点3：各組織や個への指導・助言の具体化

各組織のチーフにポイントを絞って指示、助言したことやアンケートをとってそれぞれの職員の悩みや課題を把握してミニ研修や授業サポートを実践したことは、授業実践力を向上させることにつながった。

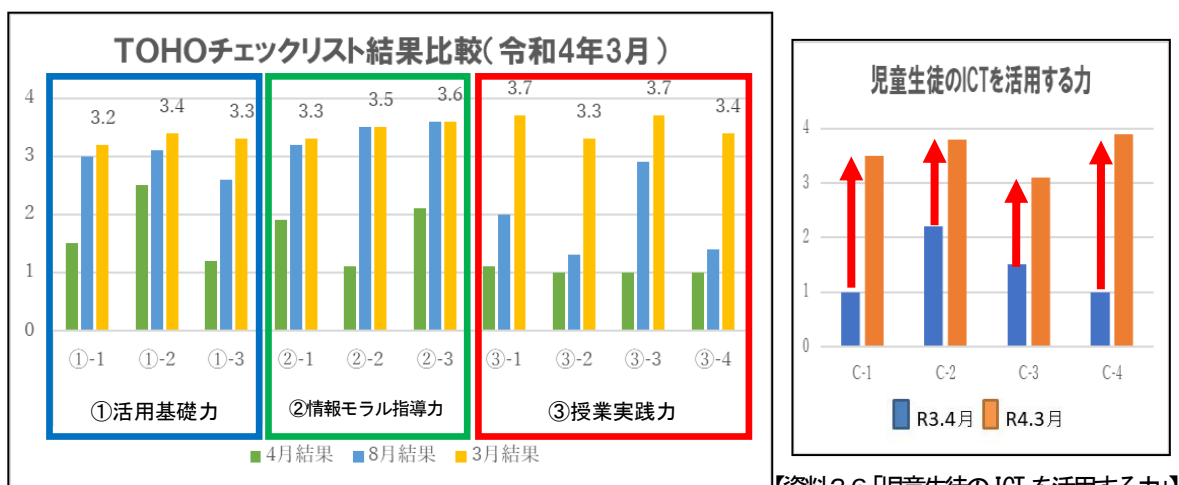
視点4：ICT支援員との連携

ICT支援員に積極的に役割を与え、直接サポートを指示したことで、ICT支援員の専門性がより発揮され、教職員の困り感に寄り添うことができた。

## 7 成果と課題

### (1) 研究の成果

本研究でめざす教職員の姿に沿って、成果と課題を明らかにする。



【資料35「TOHOチェックリスト結果」(令和4年3月)】

【資料36「児童生徒のICTを活用する力」】

#### ○ICT活用指導力を高めた教職員について

①活用基礎力(資料35の青枠のグラフ)、②情報モラル指導力(資料35の緑枠のグラフ)、③授業実践力(資料35の赤枠のグラフ)のいずれの資質・能力においても第1ステージ、第2ステージとポイントが確実にアップしており、教職員がICT活用指導力を高めたということが明確に言える。

#### ○児童生徒のICTを活用する力について

資料36は、令和3年4月に実施した文部科学省作成の「ICT活用指導力チェックリスト」のC項目「児童生徒のICT活用を指導する能力」に関する結果と、令和4年3月に子どもたちに実施した自己評価の結果の比較である。この結果から分かるように、4月の数値からどの項目も大きくポイントがアップしており、子どもたちのICTを活用する力が確実に伸びていることが分かる。職員の活用基礎力、情報モラル指導力、そして授業実践力の3つのICT活用指導力を伸ばすことが、子どもたちのICT活用力も伸ばすことにもつながっているとと言える。

これらの結果をもたらしたのは、次の4つの視点が有効に働いたからと考える。

#### ①TOHOチェックリストを核にしたPDCAサイクルの機能化の有効性について

TOHOチェックリストを核にしたPDCAサイクルの機能化を図ったことは、教職員の実態を把握、目標設定、さらにICT推進リーダーの働きかけ、マネジメントの方向性を明らかにする上で有効だった。また組織や個への働きかけ、ICT支援員との連携を意図的、計画的、継続的に進めることにつながった。

#### ②ステージ目標の重点化・共有化の有効性について

ステージ目標を重点化し、組織や全職員で共有化したことは、職員の課題の自覚化・意識化を促した。さらにTOHOチェックリストの結果等を数値化して見える化したことは、実態把握や取組みに対する意欲の向上、達成感を実感する上で有効だった。



### ③各組織や個への指導・助言の具体化の有効性について

組織への指導・助言は、それぞれのチーフのリーダーシップの醸成、モチベーションアップにつながり、組織を機能化させ、より効果的な実践を生み出す上で有効だった。また、個への指導・助言については、一人ひとりのニーズに応じた取組を実施することで個人差を解消し、一人ひとりのスキルアップにつながった。

### ④ICT支援員との連携の有効性について

ICT支援員にスキルアップ研修やミニ研修、授業サポート等、様々な場面で専門的な知識や技能の助言、支援をしてもらったことは、各職員の確実なスキルアップを実現する上で有効だった。また、各組織や個人へ意図的、計画的に関わるよう、ICT支援員をマネジメントすることでさらなる専門性の発揮を促すことにつながった。

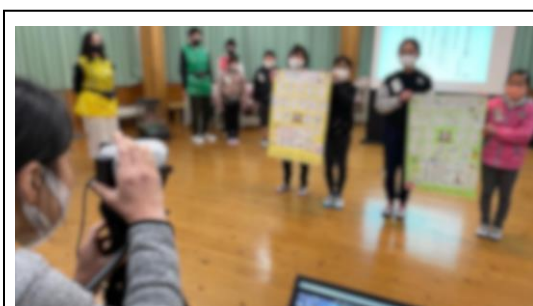
## (2) 今後の課題

- ICT活用指導力だけではなく、基盤となる質の高い授業構成力も重要である。活用指導力と相まってこれまでの授業構成力をさらに積み上げ、深い学びの授業を具現化していくこと。
- これまではICT推進リーダーと各組織が中心的に組織を推進する形だったが、今後は職員一人ひとりの要望やアイデア等をボトムアップによって吸い上げ、組織全体で共有し、チャレンジしていくといった各組織のチーフを主体にマネジメントを行うこと。

## <おわりに>

本研究をとおして、教職員のICT活用指導力が高まったのみならず、職員会議のペーパーレス化や学校行事のYouTubeライブ配信等、学校全体のICT活用のスキルアップが充実した。特にうれしいのは、子どもが係活動でクラスのオリジナル動画を作成したり、委員会で校内の活動を動画撮影、配信したりするなど、子どもたちが日常的に使いこなすように成長したことである。職員はもちろん子どもや保護者、地域からも喜びの声がたくさん聞こえてきている。

今後も、本研究をさらに発展させ、子どもたちのより充実した学びの実現のため、教職員のICT活用指導力向上に向けてICT推進リーダーとしての可能性を追究していきたい。



【委員会活動の動画配信の様子】

## <参考文献>

- ・文部科学省 「GIGAスクール構想の実現パッケージ～令和の時代のスタンダードな学校へ～」
- ・文部科学省 「教員のICT活用指導力チェックリストの改訂について」
- ・文部科学省 「ICT支援員の配置を」 平成30年3月
- ・福岡県教育委員会 福岡県学校教育ICT化推進計画 令和2年12月